

一般社団法人 全国認知症介護指導者ネットワーク

【活動目的】

認知症介護指導者同士の連携を通じて指導者としての資質の向上に努め、認知症の人の権利擁護と生活の質の向上を図る。また、地域における認知症への理解の促進及び住民への啓蒙活動等を通して、認知症の人に優しい社会の実現を目指す。さらに、行政や各関係機関と連携し、指導者の地位の確立や向上を図りながら、認知症介護の発展に寄与する。

【活動内容】

1:ちネット(仙台ネットワーク)、being(東京ネットワーク)、大府ネット(大府ネットワーク)の3つの団体の全国組織として研修会等への名称後援等 2:全国ネットとして各ネットワークの研修会を全国大会として開催 3:認知症介護指導者のZOOM研修の開催 4:出版事業として 現在までに 2冊の書籍発行 5:毎年 各都道府県・政令都市の「認知症介護実践者研修等」の実施主体へのアンケートの実施 6:災害時における認知症介護指導者からの「義援金」の募集と配布、支援活動等 7:厚生労働省老健局 担当部署への活動報告等

活動のきっかけ、背景

認知症介護研究・研修センター修了生らが設立した3つのネットワークが全国ネットワークとして緩やかに連携していたが、社会に対して指導者の顔が見えるようにするため、これまでの任意団体から法人化することとした。

活動の経過と成果

【活動の経過】

平成17年に仙台センター修了生による「ちネット」の設立をきっかけに、平成19年に「大府ネット」が、翌20年に「being」が設立した。認知症介護指導者の地位向上と知名度の向上を目的として、平成27年に3つの団体の全国組織である一般社団法人・全国認知症介護指導者ネットワークが設立された。

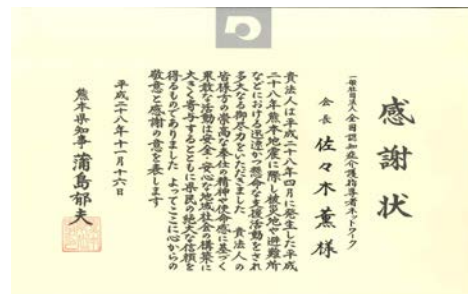
【活動の成果】

認知症介護指導者が都道府県政令市やそれぞれの地域で迷わず自信をもって活動できるように、指導者の行動規範として「求められる指導者像」を策定した。また、全国で活躍する指導者の実践を集約した「実践事例でわかる認知症ケアの視点」と「認知症ケア実践者のためのアクションプラン」を発行している。



全国ネットワークとしての取組みで大きかったものは、平成23年3月11日の東日本大震災である。3ネットワーク指導者が一致協力して、東日本大震災で被災された認知症の人や高齢者、その家族、さらには認知症介護指導者、介護従事者、事業所の支援、援助を行うことを目的に災害支援連携チームを立ち上げた。実施した主なものとしては、介護ボランティアの派遣、義援金の配布、研修用災害DVDの作成を行った。

この経験が平成28年4月14、16日の熊本地震にも活かされ、全国からの支援物資や義援金の提供にも繋がった。また、熊本県からの依頼で熊本地震災害多職種連携会議に参画した時に、避難所でのBPSD等の悪化防止を目的とした認知症サロンを実施して欲しいとの要請があった。九州地区の指導者を中心に5月中旬から約2か月に渡り、週一回の「気晴らしサロン」が開催され被災者や認知症の人に感謝された。これらの活動が評価され、全国ネットワークとして熊本県知事より感謝状が贈呈された。



今後の展望

認知症介護指導者が所属する法人、団体、施設等において、介護現場における人材不足等により、研修の講師や企画者として活動することが難しくなっている状況ではあるが、全国ネットワークとして行政や3センターとの連携を図り、指導者の地位の向上と認知症ケアの向上に取り組んでいきたい。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和2年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。